

NPO法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会（所在地：愛知県名古屋市）

事業名

生涯の学びとしての、障害青年の「学校から社会への移行期」における継続的な学習の役割と課題

研究テーマ

学校から社会への
移行期



生涯の
各ライフステージ

主な対象

発達障害・知的障害

事業の趣旨・目的

- ・障害青年の主体的学習意欲(学校卒業後も学ぶ機会ができてよかった、同世代の仲間とのコミュニケーションが楽しい等)を引き出す学び場づくり
- ・多様性を認め、互いに障害青年と共に学び合う支援者の育成
- ・本地域を中心に「障害者の学びの場づくり推進」の継続・拡充

事業実施体制・連携先

連携協議会・・・大学教員、特別支援学校教員、NPO法人理事長、教育委員会、福祉課、社会福祉協議会、親の会代表、等の立場の15名で構成。
コーディネーター・・・大学名誉教授

学習プログラムの内容

生涯学習セミナー

- 【1.ポツチャ大会、2.横溝さやかさんのファンタジーの世界へ(オンライン開催)】
- ・当事者、連携協議会委員、支援者で実行委員会を組織。2度のセミナー開催のために6回実行委員会を開き、障害青年が学びたいテーマを具体化する準備、役割を分担して開催することで主体者としての学びを創造した。

大学連携オープンカレッジ

- 【1.マーリン紙ひこうき作りと交流(オンライン)、2.Xmasツリー紙ひこうき】
- ・紙ひこうき作りを通して障害青年と連携大学学生の相互理解と交流を深めることができた。テーマや課題、指導方法を工夫することで共に学び合う学習プログラムの可能性が見い出せた。

研究の成果と課題

- ・コロナ禍の制約を受け「今できること」の範囲での研究事業であったが、障害青年の学校卒業後の学びに期待する参加者、支援者、保護者らの声を多く汲み取ることができた。
- ・コロナ禍でのオンラインを取り入れた学習スタイルにも取組み、従来の対面での学習との効果を対比して評価し、交流・コミュニケーション・雰囲気など、対面の学習を構成する要素をオンラインでも保障する工夫が課題であることがわかった。
- ・福祉事業所関係者らが参加した障害者の変容から、仕事に加えて余暇の学習の必要性を受けとめ、生涯学習の理解につながった。
- ・連携協議会に参加した委員を通して周辺地域への卒業後の学習活動開発の機運を波及させることができた。

その他研究の詳細など



法人事業所

見晴台学園HP(<http://www.miharashidai.com/>)

- ・令和2年度委託事業『報告書』(118頁)
- ・令和2年度コンファレンス『プログラム集』(58頁)を公開。

(epubファイルをご覧いただくには閲覧アプリが必要です)



生涯学習セミナー「ポツチャ大会」 大学連携OC「Xmasツリー飛行機」 コンファレンスでの成果報告